



# Sun Fire™ X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの オペレーティングシステムインストール ガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-0784-10  
2007年2月、改訂A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェイスは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITÉ MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIÈRE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに xi

## 1. 概要 1

Sun Fire X4600 シリーズサーバーでのオペレーティングシステムのインストール  
について 1

前提条件 2

決定すべき事柄 2

次のステップ 3

## 2. Solaris 10 5

Solaris OS のインストールについて 5

概要 6

Solaris 10 関連の情報の場所 10

## 3. Red Hat Enterprise Linux 11

Red Hat Enterprise Linux のインストールについて 11

Red Hat のインストールと管理マニュアル 12

Red Hat Enterprise Linux インストールの作業マップ 13

Red Hat Enterprise Linux をインストールするための準備について 13

追加ソフトウェアアップデートまたはパッチ 13

アップデートされたメディアキットの入手 14

Red Hat Enterprise Linux の配布メディアからのインストール	14
開始前のご注意	14
必要なアイテム	15
ローカルメディアからインストールする方法	15
Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート	16
開始前のご注意	16
Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアのアップデート方法	16
リモートコンソールアプリケーションによる Red Hat Enterprise Linux OS のインストール方法	17
ILOM リモートコンソールを使用したインストール方法	17
Red Hat Enterprise Linux および PXE	19
Red Hat Enterprise Linux および PXE について	19
作業マップ	19
Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定	20
必要なアイテム	20
ツールとドライバの CD イメージのダウンロード	20
ツールとドライバの CD からファイルをコピーする方法	21
DHCP サーバーの設定方法	21
portmap のインストール方法	22
TFTP サービスの設定方法	22
neopxe ブートサーバーデーモンのインストールおよび設定方法	23
NFS サービスの設定方法	25
ファイアウォールを無効にする方法	26
Red Hat Enterprise Linux をネットワークからインストールする方法	27
PXE サーバー上で PXE インストールイメージを作成する方法	27
開始前のご注意	27
Red Hat Enterprise Linux イメージを PXE サーバーに作成する方法	28

PXE サーバーからの Red Hat Enterprise Linux のインストール	29
開始前のご注意	30
PXE サーバーから Red Hat Enterprise Linux をインストールする 方法	30
<b>4. VMware のインストール</b>	<b>31</b>
VMware について	31
VMware のインストールと管理マニュアル	32
VMware ESX Server 3 インストールの作業マップ	32
ネットワークインタフェースの計画	33
CD-ROM からの VMware ESX Server 3 のインストール	33
開始前のご注意	33
作業方法	34
VMware ESX Server 3 のインストール要件	34
ローカルメディアからインストールする方法	35
VMware のアップデートおよびパッチ	36
<b>5. SUSE Linux Enterprise Server 9</b>	<b>37</b>
SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストールについて	37
SLES 9 バージョンのインストールに関する重要なガイドライン	37
SUSE Linux のインストールと設定に関するマニュアル	38
SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストールのための作業マップ	38
SUSE Linux Enterprise Server 9 をインストールするための準備について	39
インストールの前提条件	39
SLES9 オペレーティングシステムのアップデート方法	40
作業方法	40
配布メディアから SLES9 をインストールする方法	40
開始前のご注意	41
必要なアイテム	41
作業方法	41

リモートコンソールアプリケーションによる SLES9 OS のインストール方法	42
作業方法	42
SUSE Linux Enterprise Server 9 および PXE	43
SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 および PXE について	43
作業マップ	44
PXE サーバー上に SLES9 SP3 PXE インストールイメージを作成する方法	44
開始前のご注意	44
作業方法	45
PXE サーバーから SLES9 SP3 をインストールする方法	48
開始前のご注意	48
作業方法	49
<b>A. Sun Installation Assistant CD</b>	<b>51</b>
Sun Installation Assistant CD について	51
エラーメッセージ	52
ログファイル	53
Sun Installation Assistant の使い方	53
開始前のご注意	54
作業方法	55
PXE ブートから Sun Installation Assistant を設定する方法	59
作業方法	59
PXE サーバーからの Sun Installation Assistant のブート	60
無人インストールの実行	60
無人インストールの前提条件	61
無人インストールのセットアップ方法	61
無人インストールの進捗状況の観察	63
Root および VNC アクセス用パスワードの設定	63
コンソールメッセージの表示	64
仮想コンソールまたは SSH 経由の接続	64

VNC 経由の接続	64
シリアルコンソールへの接続	65
無人インストールの問題のデバッグ	66
Sun Installation Assistant の PXE イメージがブートしない	66
Sun Installation Assistant ブートが開始されたあとに停止する	67
VNC パスワードが設定されない	67
索引	69





# 表

---

表 2-1	Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ	7
表 2-2	最低システム要件	8
表 2-3	インストール方法	8



# はじめに

---

この『Sun Fire™ X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーのオペレーティングシステムインストールガイド』では、Sun Fire™ X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーに Solaris、Linux、および VMware™ ESX Server オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。Sun Fire X4600 シリーズサーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合は、『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-0789) を参照してください。

本書の情報は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

## 製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバー製品のアップデートについては、次の Web サイトの「Downloads (ダウンロード)」リンクを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4600>

このサイトでは、ファームウェアとドライバ、CD-ROM .iso イメージのアップデートが提供されています。

---

## 関連ドキュメント

Sun Fire X4600 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun Fire X4600 M2 サーバーに関連するドキュメントについては、次のページを参照してください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64\\_servers/x4600m2/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/x4600m2/index.html)

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

---

## UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていません。このような情報については、次のマニュアルを参照してください。

- システムに付属のソフトウェアマニュアル
- 次の場所にある Solaris<sup>™</sup> オペレーティングシステムのドキュメント

<http://docs.sun.com>

---

# サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑念的な損害や損失についても責任を負いません。

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーのオペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-0784-10

## 概要

---

本書は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

# Sun Fire X4600 シリーズサーバーでのオペレーティングシステムのインストールについて

サポートされているオペレーティングシステム (OS) のディストリビューションにはさまざまなものがあり、それぞれインストール方法がいくつかあります。このセクションは、個々の詳細手順を参照するための一般的なガイドのみを示すものです。Sun Fire X4600 シリーズサーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/os.jsp>

本書では、サポートされている Solaris、Linux、および VMware ESX Server 3 オペレーティングシステムのインストール手順について説明します。Windows Server 2003 をインストールする場合は、『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-0789) を参照してください。

## 前提条件

次の手順を完了してから、インストールを開始する必要があります。

- サーバーハードウェアを設置します。
- (オプション) サービスプロセッサを設定します (希望に応じて、インストール後に設定できます)。
- (Solaris™ オペレーティングシステムのみ) ツールとドライバの CD にあるソフトウェアをインストールし、セットアップします。
- IP アドレスおよびネットマスクなどの必要な情報を収集します。

## 決定すべき事柄

また、次の事項を決定する必要があります。

- Sun Fire X4600 サーバーにインストールするオペレーティングシステムの種類  
Sun Fire X4600 シリーズサーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、次の Web サイトを参照してください。  
<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/os.jsp>
- Sun Fire X4600 M2 サーバーにインストールするオペレーティングシステムの種類  
Sun Fire X4600 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、次の Web サイトを参照してください。  
<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/os.jsp>
- ディスクレスブートのためのサーバー設定の有無

---

オペレーティングシステム	ディスクレス設定関連文書
Solaris 10	5 ページの「 <a href="#">Solaris OS のインストールについて</a> 」、または『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』 ( <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a> ) を参照してください。
Red Hat Linux	11 ページの「 <a href="#">Red Hat Enterprise Linux のインストールについて</a> 」、または『Red Hat Enterprise Linux システム管理ガイド』 ( <a href="https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a> ) を参照してください。
SUSE Linux	37 ページの「 <a href="#">SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストールについて</a> 」、または SUSE LINUX Enterprise Server 9 マニュアル ( <a href="http://www.novell.com/documentation/suse.html">http://www.novell.com/documentation/suse.html</a> ) を参照してください。

---



## ■ 使用するインストール方法

方法	Solaris	Red Hat	SUSE	VMware
ハードディスクにインストール済み	可	不可	不可	不可
サーバーの配布メディア (CD/DVD) からのインストール	可	可	可	可
KVMS による配布メディア (CD/DVD) からのインストール	可	可	可	可 (注を参照)
PXE を使用するネットワークからのインストール	可	可	可	可
Sun Installation Assistant (Linux のみ)	不可	可	可	不可

関連手順については、使用している OS に該当する章を本書で参照してください。

**注** – Sun Fire X4600 サーバーは、ILOM リモートコンソールアプリケーションで業界標準の KVMS (キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ) をサポートしています。ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した、サーバーへのリモート KVMS 接続設定の詳細については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』(819-6808) を参照してください。

## ■ オペレーティングシステムのアップデートの必要の有無

通常、オペレーティングシステムのインストール後にアップデートを実行する必要があります。詳細については、使用している OS に該当する章を参照してください。

## 次のステップ

本書の各セクションには、インストールについての情報が記載されています。使用しているオペレーティングシステムに該当する章を参照してください。

また、オペレーティングシステムとともに配布されているインストール、管理、および設定に関するドキュメントも取り揃えてください。これらのドキュメントは通常、マニュアル冊子として配布メディアに付属されているか、メディアの PDF ファイルに含まれています。多くの場合、該当ドキュメントの最新版が OS ベンダーの Web サイトからダウンロードできます。

**注** – 本書では、ツールとドライバの CD とリソース CD は同じ意味で使用されています。



## Solaris 10

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

## Solaris OS のインストールについて

この章では、Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) x86/x64 プラットフォーム版を、Sun Fire X4600 サーバーにインストールするために知っておく必要のあるいくつかの情報について説明します。また、詳細な情報を記載した Solaris OS のマニュアルを示します。

この章では、ネットワークまたはメディアから Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。サーバーにプリインストールされている Solaris 10 1/06 オペレーティングシステムを設定する場合は、『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー設置マニュアル』(820-0779) を参照してください。

---

**注** - この章は、x86/x64 プラットフォーム上で Solaris OS を使用方法を熟知した経験豊富なシステム管理者を対象としています。

---

## 概要

Solaris のこのリリースは、プロセッサアーキテクチャーとして SPARC® および x86 の各製品群 (UltraSPARC®、SPARC64、IA-32、AMD64) を使用するシステムをサポートしています。

サポートされている SPARC ベースのシステムのリストは、『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』 (<http://docs.sun.com>) に記載されています。サポートされている x86 ベースのシステムは、「Solaris Hardware Compatibility List (Solaris ハードウェア互換リスト)」 (<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) に記載されています。

本書において、「x86」という用語は、Intel の 32 ビットマイクロプロセッサ製品群、および AMD が製造する 64 ビットおよび 32 ビットの互換マイクロプロセッサを指すものとし、サポートされているシステムについては、「Solaris Hardware Compatibility List (Solaris ハードウェア互換リスト)」を参照してください。

Sun Fire X4600 サーバーでは、AMD の 64 ビットおよび 32 ビット x86/x64 プロセッサ製品群向けの Solaris 10 1/06 以降を使用できます。

---

**注** - Solaris 10 オペレーティングシステムには、Solaris OS ソフトウェアを SPARC プラットフォームおよび x86/x64 プラットフォームにインストールするために必要な CD および DVD の各メディアとマニュアルが同梱されています。Sun Fire X4600 サーバーには、x86 プラットフォーム用のメディアを使用してください。

---

Sun Fire X4600 サーバーには、次の方法で Solaris OS をインストールできます。

- DVD または CD-ROM メディアから、Solaris のインストールプログラムを使用して、対話的に単一のサーバーにインストールします。
- Preboot Execution Environment (PXE) 技術と次のインストール方法を使用して、ネットワーク経由で単一または複数のサーバーにインストールします。
  - リモートの DVD イメージまたは CD イメージから、ネットワーク経由で Solaris のインストールプログラムを使用します
  - JumpStart™ を使用してインストールします
  - ディスクを使用せずにブートします
  - シリアルコンソールを使用してインストールします
- ハードドライブにプリインストールされている Solaris 10 1/06 OS のイメージからブートします (『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー設置マニュアル』 (820-0779) を参照)。

Solaris 10 Operating System DVD または CD に収録されている Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用して実行することも、コンソールセッションで対話的なテキストインストーラとして実行することもできます。Solaris インストールプログラムには、Solaris Device Configuration Assistant が含まれています。

Solaris OS をインストールするために実行する必要がある作業を特定するには、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

作業	説明	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバー設置マニュアル』(820-0779)
『Sun Fire X4600 サーバーご使用にあたって』を見直します。	このドキュメントには、Solaris ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	『Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーご使用にあたって』(820-0774)
システム要件を確認します。	使用するサーバーが最低システム要件を満たしていることを確認します。	表 2-2
Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。	収集する必要がある情報の種類は、使用する環境、および使用する Solaris OS のインストール方法によって異なります。	5 ページの「Solaris OS のインストールについて」
Solaris OS のマニュアルを特定します。	ソフトウェアに添付されている Solaris OS のマニュアルには、インストールについて知っておく必要がある情報の大部分が記載されています。	10 ページの「Solaris 10 関連情報の場所」
Solaris OS をインストールします。	インストール方法を選択し、そのインストールの手順を確認します。	表 2-3
必要に応じてパッチをインストールします。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 <a href="http://www.sunsolve.sun.com">http://www.sunsolve.sun.com</a>	『Sun Fire X4600 サーバーご使用にあたって』

表 2-2 最低システム要件

要件	説明
ハードウェア要件	Solaris OS をインストールする前に、サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを使用する場合は、その初期設定をしておく必要があります。
Solaris OS の最低バージョン	x86/x64 プラットフォーム版の Solaris 10 1/06、またはそれ以降の互換バージョン。
インストールに使用するメモリー	256M バイト推奨。64M バイト以上。
ディスク容量	12G バイト以上。
スワップ領域	デフォルトのサイズは 512M バイトです。
x86/x64 プロセッサの要件	速度 120 MHz 以上の x86/x64 プロセッサ推奨。ハードウェア浮動小数点サポートが必要です。
BIOS	業界標準の x86/x64 BIOS (フラッシュメモリーに記録)。BIOS は、CD メディアまたは DVD メディアからブートできる必要があります。

表 2-3 インストール方法

方法	説明	指示書
DVD メディアまたは CD-ROM メディアからインストールします。	CD メディアまたは DVD メディア上の Solaris インストールプログラムを使用して、単一のサーバーに対話的にインストールします。	『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』の x86 インストールの手順に従ってください。 <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0314">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0314</a>
PXE を使用してネットワークからインストールします。	リモートの DVD イメージまたは CD イメージからネットワーク経由で Solaris OS をインストールする場合、または JumpStart インストールを使用してインストール処理を自動化し、複数のシステムにインストールする場合は、PXE インストールを実行する必要があります。  PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、インストールサーバーと DHCP サーバーをセットアップし、ネットワークからブートする各サーバーで BIOS を設定する必要があります。	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の x86 PXE インストールの手順に従ってください。 <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a>

表 2-3 インストール方法 ( 続き )

方法	説明	指示書
プリインストールされたイメージからブートします。	使用する設定によっては、ハードドライブに Solaris OS のイメージがプリインストールされている場合があります。	『Sun Fire X4600 サーバー設置マニュアル』(820-0779)
シリアルコンソールからインストールします。	PXE ベースのネットワークインストールでシリアルコンソールを使用して Solaris OS をインストールします。	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の x86 PXE インストールの手順に従ってください。 <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a>
ディスクを使用しないブートを実行します。	ハードドライブを使用せずに、Sun Fire X4600 サーバーで Solaris OS をブートします。この方法は、PXE ベースのネットワークインストールとともに使用します。	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の x86 PXE インストールの手順に従ってください。 <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a>

**注** - Solaris OS には、広域通信網 (WAN) を経由したブートなど、追加のインストールプログラムが用意されていますが、Sun Fire X4600 サーバーでは、本書に記載された方法のみサポートされています。

## Solaris 10 関連の情報の場所

Solaris 10 OS のマニュアルは、Web サイト <http://docs.sun.com/> から入手できます。

Solaris 10 Documentation Collection のドキュメントのリストを表示するには、「Solaris 10」を選択します。指定がある場合は、必ず x86 システムに固有の手順に従ってください。

- Solaris 10 のインストールガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.1>
- Solaris 10 の管理ガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/47.16>
- システムのアップグレードについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5505>
- トラブルシューティングに関する情報については、次の場所にある「付録 A」を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>

Solaris 10 のマニュアルは、Solaris OS ソフトウェアに添付されている Solaris Documentation DVD にも収録されています。



## Red Hat Enterprise Linux

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

### Red Hat Enterprise Linux のインストールについて

Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアを他の Intel または AMD Opteron サーバーにインストールしたことがある場合は、Sun Fire X4600 サーバーへも同じような方法でインストールできます。Red Hat Enterprise Linux をサーバーにインストールする最も一般的な方法は、次の 2 通りです。

- Red Hat Enterprise Linux 配布メディアからのインストール
- Preboot Execution Environment (PXE) ネットワークサーバーに保存されている Red Hat Enterprise Linux ソフトウェア (インストールツリー) の kickstart による自動インストール

# Red Hat のインストールと管理マニュアル

Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアを Sun Fire X4600 サーバーにインストールする前に、次の Red Hat Enterprise Linux のマニュアルを参照してください。

マニュアル名	説明	取得場所
README ファイル	ご使用の Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアバージョンのシステム要件およびシステム設定についての最新情報が含まれています。	Red Hat Enterprise Linux CD1、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/">http://www.redhat.com/docs/</a>
『Red Hat Enterprise Linux Quick Installation Guide (Red Hat Enterprise Linux クイックインストールガイド)』	Red Hat Enterprise Linux のインストールに役立つ情報を含む簡易ガイドの印刷版です。	Red Hat Enterprise Linux 配布メディアに含まれています。
『Red Hat Enterprise Linux インストールガイド』	印刷版クイックインストールガイドの完全版です。	Red Hat ドキュメント CD、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
『Red Hat Enterprise Linux システム管理入門ガイド』	Red Hat Enterprise Linux システム管理者のための入門情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
『Red Hat Enterprise Linux システム管理ガイド』	Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをカスタマイズするための情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
『System Administration for Diskless Booting (ディスクレスブートのシステム管理)』	サーバーと Red Hat Linux をディスクレスでブートするための設定情報です。	<a href="http://www.jp.redhat.com/support/doc/">http://www.jp.redhat.com/support/doc/</a> から『Red Hat Enterprise Linux x86, Itanium™, 及び AMD64 アーキテクチャ用インストールガイド』としてダウンロードできます。
『Red Hat Enterprise Linux セキュリティガイド』	Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアのセキュリティに関するガイドです。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>

# Red Hat Enterprise Linux インストールの作業マップ

次の表を参照して、実行するインストール作業に関連する本書のセクションをご確認ください。

インストール作業	関連セクション
使用するシステムおよびネットワークに関する情報を収集します。	<a href="#">13 ページの「Red Hat Enterprise Linux をインストールするための準備について」</a>
ローカルまたはネットワークに接続された CD または DVD ドライブを使用して、配布メディアから Red Hat Enterprise Linux をインストールします。	<a href="#">14 ページの「Red Hat Enterprise Linux の配布メディアからのインストール」</a>
Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのファイルをアップデートします。	<a href="#">16 ページの「Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート」</a>

## Red Hat Enterprise Linux をインストールするための準備について

Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアは、ローカル CD/DVD、リモート CD/DVD、またはネットワークからインストールできますが、いずれのインストール方法もシステムおよびネットワーク情報を収集してから実行する必要があります。

## 追加ソフトウェアアップデートまたはパッチ

サーバーに Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをインストールしたあと、パッチとパッケージを使用してシステムソフトウェアのアップデートも必要な場合があります。詳細は、[16 ページの「Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート」](#)を参照してください。

## アップデートされたメディアキットの入手

Sun Fire X4600 サーバーに Red Hat Enterprise Linux をインストールするには、Red Hat Enterprise Linux 4 Update メディアキットを入手する必要があります。

このキットを入手するには、<http://rhn.redhat.com> にログインします。

アップデートされた ISO イメージをダウンロードするには、企業アカウント情報が必要です。企業アカウントとは、Red Hat Enterprise Linux メディアキットの購入後に Red Hat のサポートネットワークにアクセスするときに、お客様が作成するアカウントです。

アップデートされた .iso イメージを入手したら、これらを CD に書き込み、Red Hat Enterprise Linux 4 ボックスに同梱されていたメディアの代わりに使用します。このアップデートされたメディアには、Sun Fire X4600 サーバーに必要な重要なドライバが含まれています。

---

## Red Hat Enterprise Linux の配布メディアからのインストール

Red Hat Enterprise Linux には、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するための、テキストモードと使いやすいグラフィカルインタフェースの両方が用意されています。boot プロンプトで、使用するインタフェースを選択できます。このセクションでは、両方のオプションについて説明します。

### 開始前のご注意

CD から Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. <http://rhn.redhat.com> からアップデートされたメディアキットをダウンロードします。

14 ページの「[アップデートされたメディアキットの入手](#)」を参照してください。

2. Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをインストールします。

3. Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをアップデートします。

16 ページの「[Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート](#)」を参照してください。

## 必要なアイテム

配布メディアからインストールするには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスを搭載した Sun Fire X4600 サーバー
  - DVD-ROM ドライブ
  - USB キーボードおよびマウス
  - モニター
- Red Hat Enterprise Linux メディア CD セット

## ローカルメディアからインストールする方法

ローカルメディアから基本インストールを実行するには、次の手順に従います。

1. システムの電源を入れます。
2. **Red Hat Enterprise Linux 配布 CD1** を Sun Fire X4600 サーバーのローカル DVD/CD ドライブに挿入します。  
サーバーが CD から起動し、boot: プロンプトが表示されます。
3. 使用するインタフェースの種類に基づいて、boot プロンプトで次のどちらかを実行します。
  - テキストモードの場合は、次のコマンドを入力します。  
boot: **linux text**
  - グラフィカルモードの場合は、boot プロンプトで Enter キーを押します。
4. 残りのインストール作業については、『Red Hat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。
5. [16 ページの「Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート」](#)に進みます。

---

# Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート

ここでは、Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムをアップデートする方法を説明します。

## 開始前のご注意

ソフトウェアは常にアップデートされるため、オペレーティングシステムの最新バージョンが配布メディアに含まれていない場合があります。

次の 2 つの手順では、Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアを Sun Fire X4600 サーバーにインストールしていることを前提としています。次の手順では、最新の OS で Red Hat Enterprise Linux をアップデートする方法を説明します。

システムが一般にアクセス可能なネットワーク上にある場合は、システムをアップデートするとセキュリティが向上します。

## Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアのアップデート方法

次の手順に従って、オペレーティングシステムソフトウェアをアップデートします。これらの手順では、システムからインターネットにアクセスできることを前提としています。

1. サーバーで `up2date` プログラムをセットアップします。

詳細については、Red Hat Enterprise Linux メディアキットに付属のマニュアルを参照してください。

2. `up2date` プログラムを実行します。

`available package updates` (利用できるパッケージアップデート) のセクションでカーネルパッケージを選択します。

---

# リモートコンソールアプリケーションによる Red Hat Enterprise Linux OS のインストール方法

このセクションでは、Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールアプリケーションを使用して、サーバーに Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 以降をインストールするには、次の手順に従います。

---

**注** – 次の手順を完了する前に、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』をお読みください。このマニュアルでは、ILOM サービスプロセッサの Web GUI を使用してコンソールをリダイレクトする方法について詳しく説明しています。

---

## ILOM リモートコンソールを使用したインストール方法

1. Red Hat Enterprise Linux インストール CD/DVD を用意するか、これと同じ iso イメージを検索します。
2. ILOM Service Processor の Web GUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックし、「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブをクリックします。
4. 必要に応じて、マウスモードを「Relative (相対)」マウスモードに変更します。  
手順の詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』の「リモートコンソールアプリケーション」の章を参照してください。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
7. JavaRConsole にログインします。
8. キーボードおよびマウスのリダイレクトを開始します。  
「Devices (デバイス)」メニューの「Keyboard and Mouse (キーボードとマウス)」を選択します。

## 9. CD/DVD のリダイレクトを開始します。

JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法は 2 つあります。

- リモートコンソールの CD ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。
- リモートコンソールにインストールされている iso イメージを使用する場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択し、iso ファイルの場所を指定します。

---

**注** – JavaRConsole からは、フロッピーディスクのリダイレクトも行うことができます。詳細については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』を参照してください。

---

## 10. ILOM Web GUI を使用してサーバーの電源を入れます。

### 11. BIOS を次のように設定します。

- a. CTRL-E キーを押して、BIOS 設定ユーティリティに入ります。
- b. 「Boot (ブート)」メニューを選択します。
- c. 「CD/DVD Drives (CD/DVD ドライブ)」を選択します。
- d. 「AMI Virtual CD (AMI 仮想 CD)」を第 1 ブートデバイスとして設定します。
- e. F10 キーを押して変更を保存し、終了します。
- f. リブートし、CTRL-P キーを押して、ブートデバイスとして CD/DVD を選択します。

### 12. boot プロンプトが表示されたら、**linux text** と入力します。

### 13. インストール前に CD メディアのテストを求めるプロンプトが表示された場合、メディアのテストを実行しないときは、「Skip (スキップ)」を選択します。

### 14. 通常の方法で Red Hat OS をインストールします。



---

# Red Hat Enterprise Linux および PXE

## Red Hat Enterprise Linux および PXE について

Sun Fire X4600 サーバーのネットワークインタフェースカード (NIC) は、ネットワークブートプロトコルである Preboot Execution Environment (PXE) をサポートしています。サーバーのシステム BIOS およびネットワークインタフェース BIOS が、ネットワークに DHCP サーバーを自動的に問い合わせます。ネットワーク上の該当 DHCP サーバーがすでに設定されており、同一ネットワーク上で PXE プロトコルおよび PXE イメージサーバーをサポートしている場合には、システム BIOS が使用され、サーバー上にブート可能な Red Hat Enterprise Linux イメージがインストールされます。

---

**注** – PXE は、複数の Sun Fire X4600 サーバーが同じ設定になるようセットアップするための、高性能で便利なソリューションです。

---

## 作業マップ

ネットワーク上の Red Hat Enterprise Linux および PXE を活用するには、次の作業を実行する必要があります。

作業	関連セクション
<a href="http://rhn.redhat.com">http://rhn.redhat.com</a> からアップデートされたメディアキットをダウンロードします。	<a href="#">14 ページの「アップデートされたメディアキットの入手」</a>
Linux ネットワークと PXE サーバーをセットアップします。	<a href="#">20 ページの「Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」</a>
PXE サーバーに Red Hat Enterprise Linux イメージをインストールします。	<a href="#">27 ページの「PXE サーバー上で PXE インストールイメージを作成する方法」</a>
PXE サーバーの Red Hat Enterprise Linux イメージからインストールするようにサーバーを設定します。	<a href="#">29 ページの「PXE サーバーからの Red Hat Enterprise Linux のインストール」</a>

# Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

このセクションでは、サーバーで Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアの PXE インストールをサポートするように、Red Hat Enterprise Linux を実行するネットワークをあらかじめ設定する方法について説明します。これらの手順では、すでにブート可能なサーバーがあり、Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのバージョンの 1 つを PXE サーバーとして使用するよう起動していることを前提としています。

PXE インストールのためにネットワークをあらかじめ設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- ツールとドライバの CD (705-7780) からのファイルのコピー
- DHCP サーバーの設定
- portmap のインストール
- TFTP サービスの設定
- neopxe ブートサーバーデーモンのインストールおよび設定
- NFS サービスの設定
- ファイアウォールの無効化

## 必要なアイテム

PXE インストールのためにネットワークをあらかじめ設定するには、次のアイテムが必要です。

- 次の周辺機器を備えた Red Hat Enterprise Linux サーバー
  - DVD ドライブ
  - USB キーボード
  - モニター
- Red Hat Enterprise Linux メディアセット
- ツールとドライバの CD (705-7780)

## ツールとドライバの CD イメージのダウンロード

ツールとドライバの CD にアクセスできない場合は、次の URL から iso イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/downloads.jsp>

ダウンロードサイトから独自の CD を作成する場合は、この手順で説明するツールとドライバの CD の代わりにその CD を使用します。

## ツールとドライバの CD からファイルをコピーする方法

このセクションでは、PXE の設定に必要な PXE サポートファイルを、ツールとドライバの CD からコピーする方法について説明します。この例では、Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 を使用しています。rhel4u3 を実際のアップデートに対応するファイル名に置き換えてください。

1. DHCP/PXE サーバーにツールとドライバの CD を挿入します。
2. /tmp が存在しない場合は、PXE サポートファイルをコピーする一時ディレクトリを作成します。次のように入力します。

```
# mkdir /tmp
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルを /tmp/ ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# cp /mnt/cdrom/support/pxeboot/rhel4u3-pxefiles.tar.gz /tmp/
```

4. tar ファイルの内容を /tmp/ ディレクトリに解凍します。次のように入力します。

```
# cd /tmp
```

```
# tar -zxvf rhel4u3-pxefiles.tar.gz
```

ファイルが解凍されると、必要なファイルをすべて含むディレクトリが /tmp/rhel4u3-pxefiles/ に生成されます。

## DHCP サーバーの設定方法

DHCP サーバーとして使用するサーバー上で、次の手順を実行します。

1. サーバーに電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。
2. DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。

```
# rpm -qa | grep dhcp-
```

3. DHCP サーバーパッケージが表示されていない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 5 を挿入して DHCP サーバーをインストールします。次のように入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/dhcp-*.rpm
```

4. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

5. PXEClient 要求だけが PXEClient 応答を受信するように、DHCP 設定ファイル (/etc/dhcpd.conf など) を設定します。

次のエントリを DHCP 設定ファイルに追加します。詳細については、dhcpd.conf のマニュアルページを参照してください。

```
class "PXE" {match if substring(option vendor-class-identifier, 0, 9)
="PXEClient"; option vendor-class-identifier "PXEClient"; }
```

---

**注** - サーバーの /etc ディレクトリに dhcpd.conf ファイルがまだない場合は、/tmp/rhel4-pxefiles ディレクトリのサンプル DHCP 設定ファイルから dhcpd.conf ファイルをコピーできます。

---

6. DHCP サービスを起動します。次のように入力します。

```
# service dhcpd start
```

7. 常に DHCP を起動するようサーバーを設定します。次のように入力します。

```
# chkconfig dhcpd on
```

## portmap のインストール方法

DHCP サーバー上で次の手順を実行します。

1. portmap サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。

```
# rpm -qa | grep portmap
```

2. portmap が表示されていない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して portmap サービスをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/portmap-*
```

3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

## TFTP サービスの設定方法

DHCP サーバー上で次の手順を実行します。

1. TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。

```
# rpm -qa | grep tftp-server
```

2. TFTP サーバーパッケージが表示されていない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 4 を挿入し、次のコマンドを入力して TFTP サービスをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/tftp-server*
```

3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

4. /etc/xinetd.d/tftp ファイルを編集して、保存します。

次のように変更を加えます。

- -s /tftpboot エントリを -v -s /home/pxeboot に変更します。
- disable 属性を no に変更します。

5. inetd サーバーを再起動します。次のように入力します。

```
# service xinetd restart
```

## neopxe ブートサーバーデーモンのインストールおよび設定方法

DHCP サーバー上で次の手順を実行します。neopxe サーバーは同じシステム上で動作している DHCP サーバーと併用するよう設計されています。

1. DHCP サーバーとして使用するシステムに neopxe ブートサーバーデーモンをインストールします。次のように入力します。

```
# cd /tmp/rhel4u3-pxefiles/neopxe-0.2.0
# ./configure
# make
# make install
```

2. 次のコマンドを入力して、パス /usr/local/sbin/neopxe を rc.local ファイルに追加します。> 記号は必ず 2 個使用します。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/rc.local
```

3. PXE Linux のイメージを /tmp/ ディレクトリからコピーします。次のように入力します。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/rhel4u3-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```

4. PXE Linux のイメージを設定します。次のように入力します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

5. 起動時に **neopxe** が読み取る `/usr/local/etc/neopxe.conf` 設定ファイルを修正します。

- `neopxe.conf` ファイルが `/usr/local/etc` ディレクトリにない場合は、`/tmp/rhel14u3-pxefiles/neopxe-0.2.0/` ディレクトリからコピーできます。
- 有効な設定ファイルでは、次の各行（`service` 行は最低 1 つ必要）にエントリが必ず指定されています。

```
ip_addr=n.n.n.n
prompt=boot-prompt-string
prompt_timeout=timeout
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- `n.n.n.n` は PXE サーバーの IP アドレスです。
- `boot-prompt-string` は、ネットワークブート中に表示される文字列で、ユーザーに F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを表示するよう求めます。
- `timeout` は、プロンプトが時間切れになって、サーバーが最初のサービスとしてデフォルトのサービスをブートするまでの時間を秒数で示します。
- `service-number` はブートサービスを識別する番号で、1 ~ 254 の整数で示されます。
- `boot-server` は、そのブートサービスを実行するブートサーバーの IP アドレスです。
- `boot-file` は、`/home/pxeboot` ディレクトリから読み込まれるブートファイルの名前です。
- `label` は、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを起動したときに表示される文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1
prompt=Press [F8] for menu...
prompt_timeout=10
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

---

**注** - 詳細については、`neopxe.conf` のマニュアルページを参照してください。

---

6. **neopxe** デーモンを起動します。次のように入力します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```

## NFS サービスの設定方法

DHCP サーバー上で次の手順を実行します。

1. NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。  

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```
2. NFS サービスパッケージが表示されていない場合は、Red Hat Enterprise Linux CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して NFS サービスをインストールします。  

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom  
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/nfs-utils-*
```
3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。  

```
# umount /mnt/cdrom
```
4. `/etc/exports` ファイルに次の行を追加して保存します。  

```
/home/pxeboot *(no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```
5. NFS サービスを起動します。次のように入力します。
6. 

```
# service nfs start
```

 常に NFS サービスを起動するようサーバーを設定します。次のように入力します。  

```
# chkconfig nfs on  
# chkconfig nfslock on
```

---

**注** – DNS サーバーを使用している場合は、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリで定義されているアドレスの範囲に対して、DNS エントリが存在することを確認してください。DNS サーバーを使用しない場合は、`/etc/hosts` ファイルを修正して、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリに含まれるホストアドレスの範囲を追加します。

---

## ファイアウォールを無効にする方法

PXE サーバーとして使用する予定のシステムに Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアをインストールした場合に、ファイアウォールのセキュリティを有効にしてあるときは、PXE クライアントがサーバーからソフトウェアをダウンロードできるように、次の手順に従ってファイアウォールを無効にします。

1. ipchains サービスを停止します。次のように入力します。  
`# service ipchains stop`
2. iptables サービスを停止します。次のように入力します。  
`# service iptables stop`
3. サーバーの再起動時に ipchains サービスが起動しないようにします。次のように入力します。  
`# chkconfig ipchains off`
4. サーバーの再起動時に iptables サービスが起動しないようにします。次のように入力します。  
`# chkconfig iptables off`

---

**注** - ipchains サービスがサーバーにインストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されることがありますが、これらのメッセージは無視してかまいません。

---

---

**注** - PXE サーバーとして使用するシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバー上にあるデータのセキュリティは保証できなくなります。このサーバーがローカルのイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、ソフトウェアを PXE クライアントにダウンロードしたあとで、必ずファイアウォールを再度有効にしてください。

---



# Red Hat Enterprise Linux をネットワークからインストールする方法

上記の設定手順をすべて完了したら、次の作業を実行します。

1. PXE/DHCP サーバーをリブートします。
2. [27 ページの「PXE サーバー上で PXE インストールイメージを作成する方法」](#)を参照してください。

## PXE サーバー上で PXE インストールイメージを作成する方法

この手順では、Preboot Execution Environment (PXE) インストールイメージを、DHCP サーバーとして使用するサーバーに作成する方法を説明します。これにより、同じサーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーが、PXE クライアントにオペレーティングシステムのファイルを提供します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーに Red Hat Enterprise Linux イメージをインストールする前に、PXE イメージをサポートするように Linux ネットワークを設定する必要があります。[20 ページの「Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」](#)を参照してください。

### 必要なアイテム

PXE インストール手順を実行するには、次のアイテムが必要です。

- DHCP サーバーにある CD/DVD ドライブ
- Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 (またはそれ以降) メディア CD セット ([14 ページの「アップデートされたメディアキットの入手」](#)を参照)
- ツールとドライバの CD (705-7780)

## Red Hat Enterprise Linux イメージを PXE サーバーに作成する方法

1. DHCP/PXE サーバーの CD/DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。

次の例では、Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 を使用しています。rhel4u3 を実際のアップデートに対応するファイル名に置き換えてください。

2. 次のコマンドを入力して、Sun のサポートファイルを CD から DHCP/PXE サーバーの /tmp ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/support/pxeboot/rhel4u3-pxefiles.tar.gz /tmp
# cd /tmp
# tar -zxvf rhel4u3-pxefiles.tar.gz
# umount /mnt/cdrom
```

3. Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアを格納するディレクトリ構造を設定します。次のように入力します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/rhel4u3/
```

4. 各 Red Hat Enterprise Linux 配布 CD で次のコマンドを入力し、配布 CD の内容を該当する PXE のターゲットサブディレクトリにコピーします。

```
# mount dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/rhel4u3/
# umount /mnt/cdrom
```

Red Hat Enterprise Linux CD の取り出しおよび挿入は、CD/DVD ドライブがマウントされていない場合にのみ行ってください。

5. kickstart ファイル ks.cfg を PXE サーバーにコピーします。次のように入力します。

```
# cp /tmp/rhel4-pxefiles/ks.cfg /home/pxeboot/rhel4u3/
```

kickstart 設定ファイルには、使用している動作環境に最適ではない設定が含まれている場合があります。環境に合うように、必要に応じてファイルを修正してください。

6. PXE サーバーで、kickstart ファイル /home/pxeboot/rhel4/ks.cfg を編集し、保存します。

nfs 行を次のように編集します。

```
nfs --server n.n.n.n --dir /home/pxeboot/rhel4u3/
```

n.n.n.n は PXE サーバーの IP アドレスです。--dir の後ろに指定されている保存場所が、イメージのトップレベルを指していることを確認します。

7. ファイル `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` に次のエントリを追加します。

---

**注** – `append` から `ks.cfg` までのテキストブロックを、改行なしの連続する文字列として入力してください。

---

```
default rhel4
label rhel4
kernel rhel4/vmlinuz
append ksdevice=eth0 console=tty0 load_ramdisk=1
initrd=rhel4/initrd.img network
ks=nfs:n.n.n.n:/home/pxeboot/rhel4/ks.cfg
```

*n.n.n.n* は PXE サーバーの IP アドレスです。

---

**注** – コンソールベースのインストールの場合は、`append` 行に `console=ttyS0,9600` を追加してください。

---

8. `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` ファイルの修正したものを保存します。
9. Red Hat Enterprise Linux 配布 CD 1 を DHCP/PXE サーバーの CD/DVD ドライブに挿入します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/vmlinuz /home/pxeboot/rhel4u3/
# cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/initrd.img /home/pxeboot/rhel4u3/
```

## PXE サーバーからの Red Hat Enterprise Linux のインストール

ここでは、PXE/DHCP サーバーからブートイメージファイルをダウンロードする要求を送信するように Sun Fire X4600 サーバーを設定する方法と、Sun Fire X4600 サーバーに Red Hat Enterprise Linux のブートイメージをインストールする方法を説明します。

## 開始前のご注意

PXE サーバーから Red Hat Enterprise Linux をインストールするようにサーバーを設定する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- PXE サーバーをサポートするよう Linux ネットワークを設定します。20 ページの「[Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)」を参照してください。
- Linux の PXE サーバーに Red Hat Enterprise Linux イメージをインストールします。27 ページの「[PXE サーバー上で PXE インストールイメージを作成する方法](#)」を参照してください。

## PXE サーバーから Red Hat Enterprise Linux をインストールする方法

PXE サーバーから Red Hat Enterprise Linux イメージをインストールするようにサーバーを設定するには、次の手順に従います。

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。  
PXE クライアントとは、Red Hat Enterprise Linux ソフトウェアのインストール先の Sun Fire X4600 サーバーです。
2. PXE クライアントにネットワークブートを求めるプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。  
PXE クライアントは PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得しようとします。
3. プロンプトが表示されたら、F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトで、PXE サーバーに Red Hat Enterprise Linux イメージをインストールした際イメージに付けたラベルを入力します。  
Red Hat Enterprise Linux インストールイメージが、ターゲット Sun Fire X4600 サーバーにダウンロードされます。
5. 使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムを設定する場合は、Red Hat Enterprise Linux メディアキットに付属のマニュアルを参照します。
6. オペレーティングシステムのファイルをアップデートします。  
16 ページの「[Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのアップデート](#)」を参照してください。

## VMware のインストール

---

この章では、VMware ESX Server 3 およびそれ以降を Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーにインストールする方法について説明します。

---

### VMware について

VMware ESX Server 3 ソフトウェアは、ローカル CD/DVD、リモート CD/DVD、またはネットワークからインストールできますが、いずれのインストール方法もシステムおよびネットワーク情報を収集してから実行する必要があります。

VMware 仮想化ソフトウェアに関する詳細な情報と手順は、次の Web サイトで確認できます。

<http://www.vmware.com/support/pubs>

VMware をサーバーにインストールする最も一般的な方法は、次の 2 通りです。

- VMware の Web サイトからダウンロードして CD-ROM メディアに書き込んだイメージからのインストール。
- Preboot Execution Environment (PXE) ネットワークサーバーに保存されている VMware ソフトウェア (インストールツリー) の kickstart による自動インストール。

# VMware のインストールと管理マニュアル

VMware ESX Server 3.0.1 ソフトウェアを Sun Fire X4600 サーバーにインストールする前に、[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html) で、VMware ESX Server 3.0.1 のインストールに必要なマニュアルを参照してください。

- 『Introduction to Virtual Infrastructure (仮想インフラストラクチャについて)』
- 『クイックスタートガイド』
- 『インストールおよびアップグレードガイド』
- 『基本システム管理』
- 『Virtual Infrastructure Web Access システム管理者ガイド』
- 『サーバ構成ガイド』
- PXE インストールを準備するには、『Installation and Upgrade Guide for Virtual Infrastructure 3 (インストールおよびアップグレードガイド ESX 3.0.1 および VirtualCenter 2.0.1)』の第 6 章「リモートおよびスクリプトインストール」を参照してください。

## VMware ESX Server 3 インストールの作業マップ

次の表を参照して、実行するインストール作業に関連する本書のセクションをご確認ください。

インストール作業	関連セクション
システムに関する情報を収集します。	<a href="#">32 ページの「VMware のインストールと管理マニュアル」</a>
iso イメージをダウンロードして CD に書き込みます。	<a href="#">34 ページの「作業方法」</a>
ローカルまたはネットワークに接続された CD または仮想 CD ドライブを使用して、VMware ESX ソフトウェアのインストールを開始します。	<a href="#">35 ページの「ローカルメディアからインストールする方法」</a>
特定のネットワークインタフェースを識別します。	<a href="#">33 ページの「ネットワークインタフェースの計画」</a>
VMware ESX Server 3 ソフトウェアのインストールを完了します。	参照サイト： <a href="http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html">http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html</a>
必要に応じて、ESX Server 3 ソフトウェアをアップデートします。	<a href="#">36 ページの「VMware のアップデートおよびパッチ」</a>

---

## ネットワークインタフェースの計画

Virtual Infrastructure 3 サービスコンソールおよび管理インタフェースは、ネットワークインタフェースによって異なります。サービスコンソールは、最初にライブ接続が確立されたインタフェースを自動的に使用しません。一部のネットワークインタフェースを物理的に接続していない場合は、ホスト管理用にライブインタフェースをサービスコンソールと関連付ける必要があります。

ネットワークインタフェースの配線とこれらのインタフェースに関する BIOS の考慮点については、『Sun Fire X4600 Server Service manual (Sun Fire X4600 サーバースerviceマニュアル)』を参照してください。

デフォルトでは、`vmnic0` がサービスコンソールの通信用に割り当てられています。

---

## CD-ROM からの VMware ESX Server 3 のインストール

次の手順は、ローカルの CD-ROM または Java コンソールからリダイレクトされた仮想 CD-ROM から VMware ESX Server 3 をインストールする場合に適用されます。

### 開始前のご注意

- VMware ESX Server 3 で必要とされるマニュアルを読みます。
- CD-ROM が内蔵されていない場合は、ネットワークに接続された仮想 CD (または USB CD-ROM) を使用します。

## 作業方法

VMware をインストールする一般的な手順について説明します。

CD 書き込み機能を搭載している、ネットワークに接続されたシステムを使用します。

1. iso イメージを <http://www.vmware.com/download/vi/eval.html> からダウンロードします。
  - a. イメージを CD に書き込みます。

---

**注** – Java リモートコンソールを使用して CD ドライブまたはイメージをリダイレクトする場合は、デバイスタイプとして「Host Device (ホストデバイス)」を選択できます。

---

2. ESX Server 3 ソフトウェアを Sun Fire X4600 システムにインストールします。
3. 必要に応じて、ESX Server 3 ソフトウェアをアップデートします。利用可能なアップデートを <http://www.vmware.com/support/> からダウンロードします。作業については、次のセクションで詳しく説明します。

---

## VMware ESX Server 3 のインストール要件

VMware ESX Server 3 およびそれ以降を Sun Fire X4600 サーバーまたは Sun Fire X4600 M2 サーバーにインストールする前に、次の要件を確認します。

- USB キーボードおよびマウスが、Sun Fire サーバーの背面にある USB ポートに接続されていること、または Java リモートコンソールからアクセスできること。
- モニターが Sun Fire サーバーに接続されていること (Java KVMs を使用する場合は不要)。
- 内蔵 CD-ROM がない場合は、次のいずれかを選択します。
  - Sun Fire サーバーに接続された外部 USB DVD/CD-ROM ドライブ。
  - Java リモートコンソールからリダイレクトされた仮想 CD ドライブ (物理ドライブが接続されていない場合のみ)。
- VMware ESX 3 の CD-ROM メディア。



# ローカルメディアからインストールする方法

1. Sun Fire システムの電源を入れます。
2. メディアを CD-ROM ドライブに挿入します。サーバーが CD から起動し、次の boot プロンプトが表示されます。

boot:

3. グラフィカルモードにアクセスする場合は、Enter キーを押します。
4. テキストモードで操作する場合は、次のように入力します。

**esx text**

5. インストール作業について、『Installation and Upgrade Guide for VMware Infrastructure (インストールおよびアップグレードガイド ESX 3.0.1 および VirtualCenter 2.0.1)』を参照します。

ネットワークに接続されたシステムから、次の Web サイトにアクセスします。

[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html)

6. Sun Fire 固有のネットワークインタフェースを識別します。

Sun Fire システムのサービスコンソールウィンドウで、対応する利用可能なネットワーク設定を特定します。

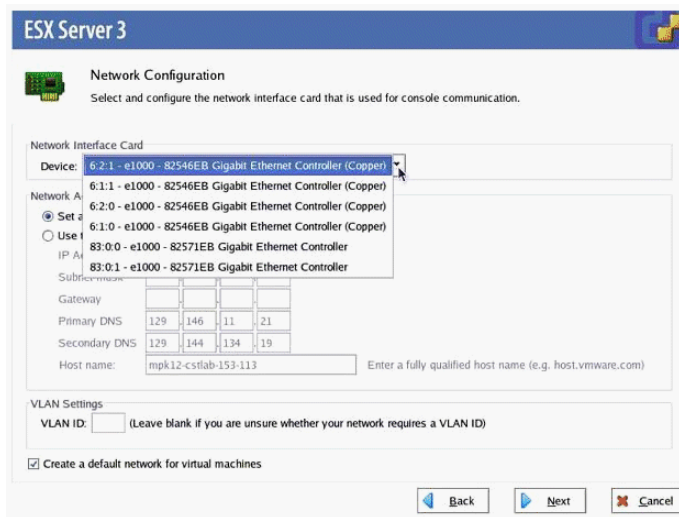


図 4-1 ESX Server 3 の「Network Configuration (ネットワーク設定)」ダイアログボックス

Sun Fire X4600 に追加またはオプションのネットワークコントローラがインストールされていない場合、ESX Server 3 のインストールネットワーク設定では、インタフェースは 3 つのアダプタとして表示されます。

```
vmnic0 = "6:2:1 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller(Copper) "  
vmnic1 = "6:1:1 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller(Copper) "  
vmnic2 = "6:2:0 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller(Copper) "  
vmnic3 = "6:1:0 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller(Copper) "
```

#### 7. VMware のインストールを完了します。

詳細については、次のサイトから『Installation and Upgrade Guide for VMware Infrastructure (インストールおよびアップグレードガイド ESX 3.0.1 および VirtualCenter 2.0.1)』を参照してください。

[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html)

## VMware のアップデートおよびパッチ

アップデート用の VMware ESX Server 3 イメージが公開された場合は、<http://www.vmware.com/support/> でダウンロードできます。

## SUSE Linux Enterprise Server 9

---

この章は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

### SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストールについて

SLES9 オペレーティングシステム (OS) を他の x86 ベースのサーバーにインストールしたことがある場合は、Linux も Sun Fire X4600 サーバーに同じような方法でインストールできます。SLES9 をサーバーにインストールする最も一般的な方法は次のとおりです。

- SLES9 配布 CD (ローカルまたはリモート) からのインストール
- ローカルネットワーク上の PXE サーバーに格納された Preboot Execution Environment (PXE) イメージから、またはネットワーク上の他の場所に格納されたイメージからのネットワーク経由のインストール

### SLES 9 バージョンのインストールに関する重要なガイドライン

SLES 9 オペレーティングシステムの各バージョンを対象とした次のガイドラインをお読みください。

- サポートされる SUSE Linux Enterprise Server (SLES) の最小バージョンは、SLES 9 Service Pack 3 (SP3) です。

# SUSE Linux のインストールと設定に関するマニュアル

SLES9 Linux をサーバーにインストールする前に、次の SUSE Linux Enterprise Server 9 のマニュアルを参照してください。

- README ファイル。SUSE Linux Enterprise Server 9 Documentation CD (および SLES9SP3 CD1) に収録されている README ファイルには、使用している SUSE Linux Enterprise Server 9 のバージョンのシステム要件とシステム設定に関する最新情報が記載されています。
- 『SUSE Linux Enterprise Server 9 Installation Manual (SUSE Linux Enterprise Server 9 インストールマニュアル)』。このマニュアルには、インストール要件、ディスクのパーティション作成、YaST2 インストールアプリケーション、およびその他の設定オプションに関する詳細情報が記載されています。
- 『SUSE Linux Enterprise Server 9 Administration Manual (SUSE Linux Enterprise Server 9 管理マニュアル)』。このマニュアルには、システムの設定作業、およびシステムと既存のネットワークサービスとの統合作業に関する追加情報が記載されています。
- SUSE Linux Enterprise Server 9 サポートサイト。SUSE の製品およびサポートに関する Web サイトでは、Enterprise Server オペレーティングシステムに関する数多くの技術情報を参照できます。追加的なサポート情報については、SUSE Linux Enterprise Server 9 のホームページ (<http://www.novell.com/products/server9>) を参照してください。

## SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストールのための作業マップ

次の表を使用して、このヘルプシステムに記載されているどの手順が、実行する必要のあるインストール作業と関連しているのかを確認してください。

インストール作業 (目的)	関連する手順または情報源
使用するシステムおよびネットワークに関する情報を収集します。	39 ページの「SUSE Linux Enterprise Server 9 をインストールするための準備について」
ローカルまたはリモートの CD ドライブから SLES9 および SLES9 SP3 をインストールします。	40 ページの「配布メディアから SLES9 をインストールする方法」
ネットワークに接続されたシステムに格納されたイメージから SLES9 SP3 をインストールします。	『SUSE Linux Enterprise Server 9 Installation Manual (SUSE Linux Enterprise Server 9 インストールマニュアル)』

---

インストール作業 (目的)	関連する手順または情報源
PXE サーバーから SLES9 SP3 をインストールします。	44 ページの「PXE サーバー上に SLES9 SP3 PXE インストールイメージを作成する方法」 48 ページの「PXE サーバーから SLES9 SP3 をインストールする方法」

---

CD またはネットワークから SUSE Linux をインストールする前に、使用するシステムとローカルエリアネットワークに関する情報を収集する必要があります。

---

## SUSE Linux Enterprise Server 9 をインストールするための準備について

SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 (SLES9 SP3) オペレーティングシステム (OS) は、ローカル CD、リモート CD、またはネットワークからインストールできますが、いずれのインストール方法もシステム情報を収集してから実行する必要があります。

サーバーには CD/DVD-ROM デバイスが装備されています。しかし、外部の CD/DVD-ROM デバイスも使用できます。

### インストールの前提条件

SLES9 をサーバーにインストールする前に、次の情報を確認または収集してください。

- DHCP サーバーの名前
- システムのラベルに記載されている MAC アドレス
- SLES9 SP3 CD セットおよび SLES9 CD

---

# SLES9 オペレーティングシステムのアップデート方法

SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9) および SLES9 SP3 ソフトウェアに付属しているオペレーティングシステムのインストールメディアに、最新バージョンの SUSE ソフトウェアが収録されていない場合があります。このメディアのリリース後、インストールする SLES9 ソフトウェアのアップデートが数多く公開されています。ここでは、PXE サーバーまたは配布 CD から、Sun Fire X4600 サーバーに SUSE オペレーティングシステムソフトウェアをインストールしたあとに、これをアップデートする方法を説明します。

## 作業方法

SLES9 SP3 オペレーティングシステムのファイルをアップデートするには、次の手順に従います。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。  
`# you`
3. 画面に表示される指示に従います。

---

## 配布メディアから SLES9 をインストールする方法

SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 (SLES9SP3) には、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するための使いやすいグラフィカルインターフェイスが用意されています。配布 CD を使用して SUSE Linux をインストールするときの手順は、ローカルに接続された CD ドライブを使用する場合も、KVMs 経由で接続されたりリモートの CD ドライブを使用する場合も、基本的に同じです。

# 開始前のご注意

SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 (SLES9SP3) ソフトウェアを CD からインストールします。

## 必要なアイテム

配布メディアからインストールするには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスを搭載した Sun Fire X4600 サーバー
  - DVD-ROM ドライブ

---

**注** – サーバーには DVD-ROM デバイスが装備されています。しかし、外部の CD-ROM デバイスも使用できます。

---

- USB キーボードおよびマウス
- モニター
- SUSE Linux Enterprise Server 9 メディアベース CD セットおよび SP3 CD セット。

## 作業方法

ローカルの CD ドライブから基本インストールを実行するには、次の手順に従います。

1. **SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 CD 1 (または DVD) をローカルの CD/DVD ドライブに挿入します。**

---

**注** – インストール処理の実行中に、配布 CD を交換するよう指示するメッセージや、リブートの前にメディアを取り出すよう指示するメッセージが表示されます。それらの指示に従ってください。

---

2. システムの電源を入れます。

SUSE Linux が配布 CD からブートされます。グラフィカルなブートローダーに、いくつかのブートオプションが表示されます。

---

**注** – 選択画面に表示されたキーボード上の対応するファンクションキーを押すと、インストーラのビデオ解像度を変更できます。

---

3. 『SLES9 Installation Guide (SLES9 インストールガイド)』に記載されているインストール指示に従って、システムソフトウェアのインストールを完了します。

---

## リモートコンソールアプリケーションによる SLES9 OS のインストール方法

このセクションでは、ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、SLES9 OS を Sun Fire X4600 サーバーにインストールする方法を説明します。

### 作業方法

ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、SLES9 OS を Sun Fire X4600 サーバーにインストールするには、次の手順に従います。

1. SLES9 インストール CD を用意するか、これと同じ iso イメージを検索します。

---

**注** – リモートコンソールアプリケーションは iso イメージをリダイレクトできます。

---

2. ILOM Service Processor の Web GUI に接続します。

SUN ILOM Web GUI にログインする方法、およびそこからログアウトする方法を説明した項目を参照してください。

3. 「Remote Control - Redirection (リモートコントロール - リダイレクト)」を選択して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。

4. キーボードおよびマウスのリダイレクトを開始します。

キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージデバイスをリダイレクトする方法を説明した項目を参照してください。

5. CD/DVD のリダイレクトを開始します。

リダイレクトは 2 種類から選択できます。1 つは、「Devices (デバイス)」メニューを使用して CD-ROM ドライブをリダイレクトし、リダイレクト CD-ROM ドライブにいずれかのインストール CD 1 を挿入する方法で、もう 1 つは、「Devices (デバイス)」メニューを使用して CD-ROM イメージをリダイレクトする方法です。プロンプトが表示されたら、SLES9SP3 ディスク 1 の iso イメージを選択します。

6. ILOM Web GUI を使用してサーバーの電源を入れます。

ホストサーバーの電源を制御する方法を説明した項目を参照してください。



7. F2 キーを押して BIOS 設定に入り、CDROM を使用するように BIOS ブートデバイスを設定するか、F8 キーを押して、表示されるプロンプトで「CDROM」を選択します。
8. SLES9 のインストールメニューが表示されたら、矢印キーを使用して「Installation (インストール)」を選択します。Enter キーは決して押さないでください。

---

**注** – この選択は、他の値（デフォルト値）が実行される前に迅速に行ってください。

---

- a. (省略可) F2 キーを押して、表示解像度を 1024 x 768 に変更します。  
これはリモートコンソールアプリケーションのデフォルトの表示解像度です。
9. Enter キーを押してインストールを続行します。  
ドライバディスクを挿入するよう求めるプロンプトが表示されます。
10. CD-1 をドライブに挿入するよう求めるプロンプトが表示されたら、再度 SLES9 のインストール CD-1 (SLES9 ベースメディアセット) を挿入するか、iso イメージ 1 に切り替えます。

---

**注** – この時点で、グラフィカルなインストールを実行するにはメモリーが不足しており、テキストベースのインストールを使用する必要があることを示すメッセージが表示されたら、Tab キーを使用してオプション間を移動します。

---

11. SLES9 のインストールを通常どおりに進めます。

---

## SUSE Linux Enterprise Server 9 および PXE

### SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 および PXE について

Sun Fire X4600 サーバーのネットワークインタフェースカード (NIC) は、ネットワークブートプロトコルである Preboot Execution Environment (PXE) をサポートしています。サーバーのシステム BIOS およびネットワークインタフェース BIOS が、ネットワークに DHCP サーバーを自動的に問い合わせます。PXE は、複数の Sun Fire X4600 サーバーが同じ設定になるようセットアップするための、高性能で便利なソリューションです。

## 作業マップ

ネットワーク上の SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9) Service Pack 3 (SP3) および PXE を活用するには、次の作業を実行する必要があります。

作業	関連セクション
Linux ネットワークと PXE サーバーをセットアップします。	<a href="#">19 ページの「Red Hat Enterprise Linux および PXE について」</a> の x86 PXE インストールの手順に従います。
PXE サーバーに SUSE Linux イメージをインストールします。	<a href="#">44 ページの「PXE サーバー上に SLES9 SP3 PXE インストールイメージを作成する方法」</a>
PXE サーバーの SLES9 SP3 イメージからブートまたはインストールするようにサーバーを設定します。	<a href="#">48 ページの「PXE サーバーから SLES9 SP3 をインストールする方法」</a>

## PXE サーバー上に SLES9 SP3 PXE インストールイメージを作成する方法

この手順では、Preboot Execution Environment (PXE) インストールイメージを、DHCP サーバーとして使用するサーバーに作成する方法を説明します。これにより、同じサーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーが、PXE クライアントにオペレーティングシステムのファイルを提供します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーに SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 (SLES9 SP3) イメージをインストールする前に、PXE イメージをサポートするように Linux ネットワークを設定する必要があります。SLES9 SP3 の PXE インストールをサポートするようにネットワークをあらかじめ設定する方法については、[20 ページの「Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」](#)を参照してください。

## 必要なアイテム

PXE インストール手順を実行するには、次のアイテムが必要です。

- PXE インストールをサポートするようにネットワークをあらかじめ設定したときにセットアップした、CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを備えた DHCP サーバー
- SUSE Linux Enterprise Server 9 ベースメディア CD セット
- SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 メディア CD セット
- Sun Fire X4600 リソース CD（またはツールとドライバの CD）

## 作業方法

### PXE インストールイメージを作成する方法

次の手順に従って、PXE インストールイメージを PXE サーバー上に作成します。

---

**注** – この手順を始める前に、PXE インストールをサポートするようにネットワークをあらかじめ設定する方法に従ってネットワークが設定されているかどうか確認してください。

---

1. リソース CD を DVD-ROM ドライブに挿入します。  
リソース CD はツールとドライバの CD と呼ばれる場合もあります。
2. 次のコマンドを入力して、PXE サポートファイルをリソース CD から /tmp ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/support/pxeboot/sles9sp3-pxefiles.tar.gz /tmp
# cd /tmp
# gunzip sles9sp3-pxefiles.tar.gz
# tar xvf sles9sp3-pxefiles.tar
# umount /mnt/cdrom
```

---

**注** – SLES9 SP3 をインストールする場合は、SLES9 ベースメディアセットと SLES9 SP3 メディアセットの両方が必要です。

---

## SLES9 ソフトウェアをセットアップしてディレクトリにコピーする方法

次の手順では、PXE インストール用の SLES9 ベースと SLES9SP3 ファイルを格納するディレクトリセットアップを作成する方法について説明します。

---

**注** – 格納先として `/home/pxeboot/sles9/` 以外のディレクトリを使用することもできますが、この手順では、このディレクトリを例として使用します。

---

1. SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアを格納するディレクトリ構造を設定します。次のように入力します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/sles9/sles9/CD1
# mkdir -p /home/pxeboot/sles9/core9/CD{1,2,3,4,5}
```

2. SLES9baseCD1 の内容を `/home/pxeboot/sles9/sles9/CD1` にコピーします。

3. SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 1 をサーバーに挿入し、その内容を PXE サーバーにコピーします。次のように入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/sles9/CD1
```

4. 次のコマンドを入力してから、SUSE Linux Enterprise Server 9 CD 1 をサーバーから取り出します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

5. 上の手順を繰り返して、次に示す `/home/pxeboot/sles9/core9` の各ディレクトリに CD メディアの内容をコピーします (CD2 の内容をディレクトリ CD1 に、CD3 の内容をディレクトリ CD2 にという手順でコピーする)。

```
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/core9/CD1
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/core9/CD2
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/core9/CD3
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/core9/CD4
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/core9/CD5
```

- a. 次のコマンドを実行して、SLES9SP3 CD 用のディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/sles9/sles9-sp3/CD{123}
```

- b. SLES9SP3 CD1 の内容を `/home/pxeboot/sles9/sles9-sp3/CD1` にコピーします。

6. SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 CD 1 をサーバーに挿入し、その内容を PXE サーバーにコピーします。次のように入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles9/sles9-sp3/CD1
```

7. 次のコマンドを入力してから、SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 CD 1 をサーバーから取り出します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

8. SLES9 SP3 CD2 および CD3 に対してこの手順を繰り返します。

```
# cp -r /mnt/cdrom /home/pxeboot/sles9/sles9-sp3/CD2
```

```
# cp -r /mnt/cdrom /home/pxeboot/sles9/sles9-sp3/CD3
```

## *PXE ファイルへのリンクを作成する方法*

1. 次のコマンドを実行して、記号リンクを作成します。次のように入力します。

```
# cd /home/pxeboot/sles9
```

```
# ln -s ./sles9/CD1/boot/ .
```

```
# ln -s ./sles9-sp3/CD1/boot ./boot.sp3
```

```
# ln -s ./sles9/CD1/content .
```

```
# ln -s ./sles9/CD1/control.xml .
```

```
# ln -s ./sles9-sp3/CD1/driverupdate .
```

```
# ln -s ./sles9-sp3/CD1/boot/loader/initrd .
```

```
# ln -s ./sles9-sp3/CD1/boot/loader/linux .
```

```
# ln -s ./sles9/CD1/media.1 .
```

2. 適切なコンテンツファイルと instorder ファイルをセットアップします。次のように入力します。

```
# mkdir yast
```

```
# cp /tmp/sles9sp3-pxefiles/order yast/
```

```
# cp /tmp/sles9sp3-pxefiles/instorder yast/
```

3. autoyast.xml ファイルを、/tmp/sles9sp3-pxefiles/ ディレクトリから PXE イメージのルートにコピーします。次のように入力します。

```
# cp /tmp/sles9sp3-pxefiles/autoyast.xml /home/pxeboot/sles9/
```

4. PXE サーバーで、/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default ファイルに次のエントリを追加して変更し、保存します。

---

**注** – append から autoyast.xml までのテキストブロックを、改行なしの連続する行として入力してください。

---

```
default sles9
label sles9
kernel sles9/linux
append textmode=1 initrd=sles9/initrd install=
nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/sles9
autoyast=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/sles9/autoyast.xml
```

n.n.n.n は PXE サーバーの IP アドレスです。

---

**注** – コンソールベースのインストールの場合は、append 行に console=ttyS0,9600 を追加してください。

---

## PXE サーバーから SLES9 SP3 をインストールする方法

ここでは、PXE/DHCP サーバーからブートイメージファイルをダウンロードする要求を送信するように Sun Fire X4600 サーバーを設定する方法と、Sun Fire X4600 サーバーに SUSE Linux Enterprise Server 9 SP3 (SLES9 SP3) のブートイメージをインストールする方法を説明します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーから SUSE Linux をインストールするようにサーバーを設定する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- PXE サーバーをサポートするよう Linux ネットワークを設定します。SLES9 の PXE インストールをサポートするようネットワークをあらかじめ設定する方法を説明した項目を参照してください。
- Linux の PXE サーバーに SLES9 SP3 イメージをインストールします。PXE サーバー上に PXE インストールイメージを作成する方法を説明した項目を参照してください。

## 作業方法

SLES9 SP3 イメージを PXE サーバーからインストールするようにサーバーを設定するには、次の手順に従います。

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。  
PXE クライアントとは、SUSE Linux Enterprise Server 9 ソフトウェアのインストール先の Sun Fire X4600 サーバーです。
2. PXE クライアントにネットワークブートを求めるプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。  
PXE クライアントは PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得しようとします。
3. F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. **boot:** プロンプトが表示されたら、PXE サーバーに SUSE イメージをインストールした際イメージに付けたラベルを入力します。  
SLES9 SP3 インストールイメージが、ターゲット Sun Fire X4600 サーバーにダウンロードされます。
5. 使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムを設定する場合は、SLES9 メディアキットに付属のマニュアルを参照します。
6. オペレーティングシステムのファイルをアップデートします。  
SUSE Linux オペレーティングシステムをアップデートする方法を説明した項目を参照してください。





## Sun Installation Assistant CD

---

**注** – この付録は、特に説明がない限り、オリジナルの Sun Fire X4600 サーバーと Sun Fire X4600 M2 サーバーに適用されます。

---

---

## Sun Installation Assistant CD について

---

**注** – Sun Installation Assistant CD は、ILOM リモート CD-ROM 機能およびリモートコンソールアプリケーションにより、リモートで使用できます。詳細については、リモートコンソールアプリケーションについて説明した項目を参照してください。

---

Sun™ Installation Assistant CD により、サポートされている Linux オペレーティングシステム (OS) を Sun Fire X4600 サーバーにインストールできます。Sun Installation Assistant CD には、品質保証のテストをした Sun 対応ドライバのセットが収められています。

Sun Installation Assistant CD を使用することで、オペレーティングシステムや適切なドライバ、およびシステムの追加ソフトウェアをインストールできます。Sun Installation Assistant により、ドライバ CD を作成する手間が省けます。

**注** – Sun Installation Assistant CD によって、自動的に OS のインストール処理が行われるわけではありません。Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server 9 のインストールについての項目にある次の手順に従う必要があります。ただし、ドライバ CD を作成する必要はありません。Sun Installation Assistant は、自動的に Sun 対応ドライバをインストールします。

---

Sun Installation Assistant は次の作業を実行します。

- システム上のハードウェアを識別します。
- オペレーティングシステムをインストールします。
- 適切なドライバおよびプラットフォームに固有のソフトウェアを識別してインストールします。

Sun Installation Assistant CD の使用は省略できますが、使用するとユーザーが Linux ディストリビューションを簡単にインストールできます。

## エラーメッセージ

Sun Installation Assistant にエラーまたは予期せぬ状態が発生した場合には、エラーメッセージが生成されます。次のような複数の簡単なエラーメッセージが表示されることがあります。

```
You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2.Please insert Disc 2.
```

(Disc 3 を挿入しましたが、システムは Disc 2 を要求しています。Disc 2 を挿入してください)

サポートされていない Linux バージョンの Sun Installation Assistant を使用する場合があります。このような場合は、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
The media you have provided is not a release that is supported by Sun Microsystems, Inc. on this platform.You cannot use the Sun Installation Assistant to install this product and associated software.
```

(挿入したメディアは、このプラットフォームにおいて Sun Microsystems, Inc. によってサポートされたリリースではありません。この製品および関連ソフトウェアのインストールには Sun Installation Assistant をご利用になれません)

このような場合は、次のオプションの 1 つを選びます。

- サポートされた製品をインストールするには、「Back (戻る)」をクリックしてから適切なメディアを挿入してください。
- このサポートされていない製品をインストールするには、「Exit (終了)」をクリックして Sun Installation Assistant を終了してから、システムをリブートしてください。これで通常と同じようにサポートされていない製品をインストールできます。

サポートされているソフトウェアリリースバージョンについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4600/os.jsp>

## ログファイル

Sun Installation Assistant のログファイルは、新たにインストールしたシステムの /root ディレクトリに書き込まれます。

このログファイルを確認するには、/root/SunInstallationAssistant.log ファイルを参照してください。

---

## Sun Installation Assistant の使い方

この手順では、Sun Installation Assistant を使用して、サーバーに Linux をインストールする方法を説明します。Sun Installation Assistant CD は、新しいシステムに同梱されています。

---

**注** – Sun Installation Assistant によって、自動的に OS のインストール処理が行われるわけではありません。ただし、ドライバ CD を作成する必要はありません。これは Sun Installation Assistant が自動的に Sun 対応のドライバをインストールするためです。インストール完了後は、Sun Installation Assistant の画面に戻ります。

---

Sun Installation Assistant は、サーバーの CD-ROM、CD-ROM のリダイレクトによるリモート KVM、または PXE ネットワークブートのいずれかを使用してブートできます。PXE ネットワークブートの設定手順については、PXE ブートに関する Sun Installation Assistant の設定について説明した項目を参照してください。次の手順は、CD-ROM からのブートについて説明していますが、ネットワークブートを選択する場合に置き換えることができます。

インストールされる Linux システムのメディアには、ネットワークイメージまたは CD-ROM のいずれかを使用できます。LAN 上のネットワークイメージからインストールする場合は、高速でインストールできます。

## 開始前のご注意

Sun Installation Assistant ソフトウェアのインストールには、次の手順が含まれます。

1. ローカル CD、CD-ROM のリダイレクトによるリモート KVM、または CD 内に含まれるイメージをブートする PXE を使用して、Sun Installation Assistant をブートします。
2. プロンプトに従って、Linux をインストールするメディアまたはネットワークイメージを入力します。

Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムおよびドライバのアップデート方法についての項目を参照してください。

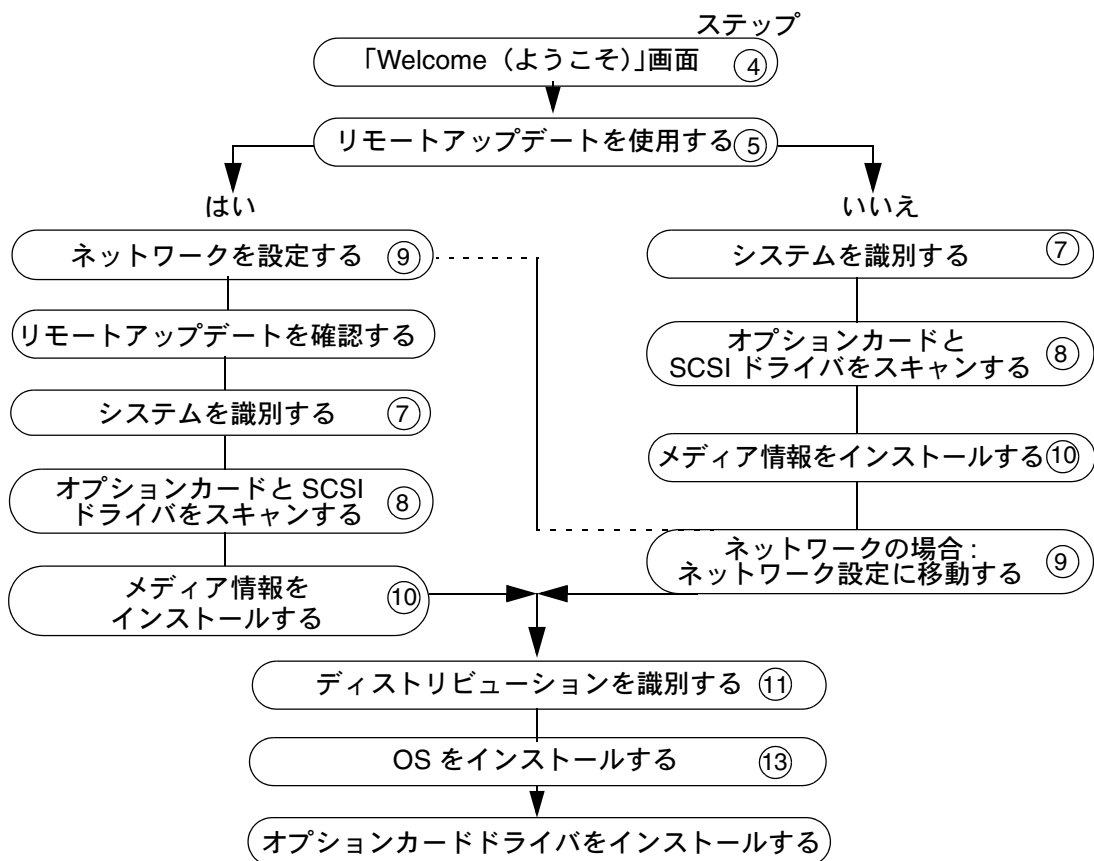


図 A-1 リモートアップデートによる作業の流れ

# 作業方法

Sun Installation Assistant を使用するには、次の手順に従います。

1. **Sun Installation Assistant CD** をサーバーの **CD/DVD** ドライブに挿入するか、**PXE** ブートを使用するか、または **CD-ROM** のリダイレクトによるリモート **KVM** を使用します。

PXE ブートに関する Sun Installation Assistant の設定方法および CD-ROM ドライブリダイレクトの起動と停止方法について説明した項目を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、またはリブートします。

サーバーで、Sun Installation Assistant がブートされます。この処理には数分かかります。最初の表示画面は、ソフトウェアライセンス契約の画面です。

3. 契約条件をよく読みます。

ライセンスウィンドウの下までスクロールし、「Accept (同意する)」ラジオボタンをアクティブ状態にします。

- 同意する場合は、「Accept (同意する)」ラジオボタンを選択して「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。Sun Installation Assistant を紹介する「Welcome (ようこそ)」画面が表示されます。
- 同意しない場合は、「Decline (同意しない)」ラジオボタンを選択して「Exit (終了)」をクリックし、Sun Installation Assistant を閉じます。システムにはサーバーをリブートするプロンプトが表示されます。

4. 「**Welcome (ようこそ)**」画面で「**Next (次へ)**」をクリックします。

「Welcome (ようこそ)」画面には、Sun Installation Assistant の概要が説明されます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

5. 「**Remote Update (リモートアップデート)**」画面でアップデートを確認して、「**Next (次へ)**」をクリックします。

Sun Installation Assistant は、アップデートをダウンロードして、新しいドライバやプラットフォームを有効にしたり、他の問題を修正したりできます。この機能を無効にする場合は、「Remote Update (リモートアップデート)」画面で「No (いいえ)」をクリックします。「Yes (はい)」を選択した場合は、ネットワークを設定してから ([ステップ 9](#))、この手順に戻る必要があります。

6. リモートアップデートにより、利用可能なアップデートの有無が確認され、アップデート対象のアイテムのリストが表示されます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

リモートアップデートプロセスでアップデートの有無が確認され、利用可能なアイテムが表示されます。アップデートされたコンポーネントが必要な場合は、該当するコンポーネントがダウンロードされます。

7. システムを識別します。

ハードウェア、プロセッサ、およびシステムの合計メモリーを識別します。  
「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

8. SCSI デバイスがスキャンされます。

オプションカードがあるかどうかを識別され、SCSI ディスクもスキャンされ、結果が表示されます。Sun Installation Assistant は、自動的に次の画面に進みます。

---

**注** – 一部のオプションカードドライバでは、デフォルトのインストールとは異なるカスタムインストールが必要になり、インストールの一部として開発パッケージを選択する必要があります。この手順を怠ると特定のオプションカードドライバがインストールされませんが、OS のインストールには影響しません。

---

9. 前の画面で「Remote Update (リモートアップデート)」を選択した場合は (ステップ 5)、ネットワークを設定する必要があります。

a. アクティブなネットワークインタフェースを選択します (例: eth0)。

b. 設定方法を選択します (dhcp または静的)。

- 静的な方法を選択した場合は、必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイなど) を入力します。

c. 外部サイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要な場合は、次のようなプロキシ情報を入力します。

sia-updates.sun.com

---

**注** – FTP を選択した場合は、サーバーで匿名 FTP がサポートされている必要があります。匿名 FTP では、iso インストールイメージを解凍したディレクトリにアクセスできることが条件になります。

---

d. 「Next (次へ)」をクリックします。

リモートアップデートプロセスで利用可能なアップデートの有無が確認され、利用可能なアイテムのリストが表示されます。アップデートされたコンポーネントは、必要に応じてダウンロードされます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

10. インストール方法を選択します。

Linux ディストリビューションを CD、HTTP、NFS、または FTP のどれからインストールするかを選択します。ネットワークがまだ有効ではない状態で HTTP、NFS、または FTP を選択すると、次の画面でネットワークを有効にするように指示されます。

11. インストールメディアを入力します。

HTTP、NFS、または FTP からインストールする場合：

ネットワークインストールを選択した場合は、ネットワークイメージをインストールする URL を入力するようプロンプトが表示されます。次に例を示します。

`http://host.name/path/to/install/image`

`http://ip.address/path/to/install/image`

`nfs://host.name/path/to/install/image`

`nfs://ip.address/path/to/install/image`

`ftp://host.name/path/to/install/image`

`ftp://ip.address/path/to/install/image`

CD からインストールする場合：

Sun Fire X4600 サーバーおよび Sun Fire X4600 M2 サーバーは、次のサイトに記載されている Linux ディストリビューションをサポートしています。

`http://www.sun.com/servers/x64/x4600/os.jsp`

12. サーバーの CD/DVD ドライブに、サポートされているディストリビューションのいずれかのディスク 1 を挿入します。

---

**注** – 管理者の便宜のために、SP の CD-ROM リダイレクト機能が使用できます。CD-ROM ドライブリダイレクトの起動と停止方法について説明した項目を参照してください。

---

---

**注** – Sun Installation Assistant をブートした同じ CD-ROM ドライブに OS メディアを挿入する必要があります。

---

13. 「Next (次へ)」をクリックします。

次の例に示すように、Linux ディストリビューションが識別されます。

Identifying distribution... identified as Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 AS - 64bit.

(ディストリビューションの識別中 ... Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 AS - 64bit と識別されました)

---

**注** – サポートされていないメディアを挿入すると、エラーメッセージが表示されます。

---

14. 「Next (次へ)」をクリックして、このディストリビューションのインストーラを起動します。  
インストールしている Linux バージョン固有のインストールソフトウェアが処理を引き継ぎます。
15. インストーラ画面の指示に従います。  
サポートされている任意のオプションカードがシステムに存在し、OS にそのカードに必要なドライバが含まれていない場合は、Sun Installation Assistant がそのカードに対応するドライバをインストールします。
16. インストールが完了すると、Sun Installation Assistant は、Linux OS カーネルと検出されたオプションカードの RPM をインストールします。  
その後 Sun Installation Assistant CD が押し出され、サポートされている Linux ディストリビューションのリストが表示されます。Sun Installation Assistant は、これら Linux OS カーネル固有の RPM しかインストールしません。
17. 適切なソフトウェアがインストールされたか確認します。  
最終画面では、次の例が示すように、インストールされる追加ソフトウェアが識別されます。  

```
The Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 AS - 64bit installation has completed.
```

(Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 AS - 64bit のインストールが完了しました)

```
Installing Sun Fire 4600 drivers... completed.
```

(Sun Fire 4600 ドライバのインストール中 ... 完了しました)

```
The installation has completed.
```

(インストールが完了しました)
18. 「Reboot (リブート)」をクリックして、新たなオペレーティングシステムがインストールされたサーバーをリブートします。



---

# PXE ブートから Sun Installation Assistant を設定する方法

この手順では、サーバーに Sun Installation Assistant をブートするように Preboot Execution Environment (PXE) を設定する方法について説明します。

## 作業方法

---

**注** – このセクションでは、ユーザーはすでに PXE ブートサーバーの設定を理解していることを前提とします。次の情報は、既存の PXE ブートサーバーに Sun Installation Assistant のブートターゲットを追加するためのものです。

---

PXE ブートのための Sun Installation Assistant ソフトウェアの設定には、次の手順が含まれます。

1. 20 ページの「Red Hat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」の説明に従って、PXE をサポートするようにネットワークを事前設定します。
2. Sun Installation Assistant イメージのために、PXE Linux ディレクトリに新規サブディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/suninstall
```
3. PXE サーバーの CD ドライブに Sun Installation Assistant CD を挿入して CD をマウントします。
4. CD から `vmlinuz` および `initrd` ファイルを PXE Linux ディレクトリにコピーします。マウントされる CD イメージには正しいパスを使用してください。この例では、`/mnt/cdrom` を使用します。

```
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/vmlinuz /home/pxeboot/suninstall
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/initrd.img /home/pxeboot/suninstall
```
5. Sun Installation Assistant を PXE 設定ファイルに追加します。次の行を `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` に入力します。

---

**注** – `append` から `netboot` までのテキストブロックは、改行なしの連続する文字列として入力してください。

---

```
default suninstall
label suninstall
kernel vmlinuz
append initrd=initrd.img vga=0x314 ramdisk_size=400000 root=/dev/ram
netboot
```

6. CD をアンマウントして取り出します。

## PXE サーバーからの Sun Installation Assistant のブート

1. Sun Fire X4600 サーバーを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、システムの電源を入れます。
2. システムがネットワークブートの実行を初期化している間に、システム上で F12 キーを押します。システムは、DHCP サーバーから IP アドレスの取得を行います。
3. F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、**suninstall** と入力します。
5. Sun Installation Assistant イメージがシステムにダウンロードされます。53 ページの「[Sun Installation Assistant の使い方](#)」に記載されているように、インストールを続行することができます。

---

## 無人インストールの実行

Sun Fire X4600 サーバー Sun Installation Assistant 2.0.1 (705-0528-10 以降のバージョン) には、無人インストール機能が追加されています。SIA 無人インストールでは、Linux プラットフォームの Linux Sun 準拠ドライバが自動的に提供されます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 61 ページの「[無人インストールの前提条件](#)」
- 61 ページの「[無人インストールのセットアップ方法](#)」
- 63 ページの「[無人インストールの進捗状況の観察](#)」
- 66 ページの「[無人インストールの問題のデバッグ](#)」

# 無人インストールの前提条件

この手順では、次を前提とします。

- Red Hat 無人インストールを熟知していること。
- Red Hat PXE インストール手順に従って、kickstart ファイルがすでに作成されていること。
- FTP、HTTP、または NFS サーバーから kickstart ファイルにアクセスできること。

上記要件のリソースについては、次のドキュメントを参照してください。

- [11 ページの「Red Hat Enterprise Linux」](#)
- Red Hat kickstart ドキュメント

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/syadmin-guide/>

# 無人インストールのセットアップ方法

無人インストールのセットアップには、3つのステップがあります。

## 1. SIA 無人 state ファイルを作成します。

state ファイルは、無人インストールを指示するテキストファイルです。このファイルは、PXE を使用して SIA をブートする際に、FTP、NTS、または HTTP を介して使用可能である必要があります。その場所は、設定ファイルでブート引数として指定されます（[ステップ 2c](#) を参照）。

このファイルでは、無関係なスペースや句読点は一切使用できません。ファイル中の行は、Sun Installation Assistant を使用して対話的インストールを実行する際に表示されるステップに対応します。ファイルの例を次に示します。

```
[STATE_BEGIN noname apit]
apit.unattended=true
apit.welcome.acceptlicense=true
apit.welcome.skipWelcome=true
apit.networking=true
apit.networkconfig.needNetwork=true
apit.networkconfig.useDHCP=true
apit.networkconfig.needProxy=false
apit.osid.installMethod=<http, ftp または nfs>
apit.osid.installLoc=<PXE ファイルの URL>
apit.osid.kickstart=<設定ファイルの URL>
[STATE_DONE noname apit]
```

カスタマイズが必要な行は、次のとおりです。

- **apit.osid.installMethod** - http、ftp、または nfs を指定します。  
例: `apit.osid.installMethod=http`
- **apit.osid.installLoc** - インストールする OS 用 PXE ファイルの URL を指定します。  
例: `apit.osid.installLoc=http://<path_to_install_image>`
- **apit.osid.kickstart** - インストールに使用する設定ファイル (Red Hat の場合は kickstart ファイル) の URL を指定します。  
例: `apit.osid.kickstart=http://<path_to_kickstart_file>`

## 2. SIA をブートする PXE イメージをセットアップします。

- a. Sun Installation Assistant のネットワークインストールイメージを作成します。  
[59 ページの「PXE ブートから Sun Installation Assistant を設定する方法」](#)を参照してください。
- b. SIA CD から PXE サーバーに次のファイルをコピーします。  
`/boot/isolinux/vmlinuz` (PXE ブートカーネルイメージ)  
`/boot/isolinux/initrd.img` (初期 RAM ディスク)
- c. PXE ブートターゲットファイル `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` に次のカーネルブート引数を挿入します。

```
initrd=<initrd.img の場所>
vga=0x314
ramdisk_size=440320
root=/dev/ram0
splash=silent
siaurl=http:<state ファイルの URL>
```

`initrd=` は、Sun Installation Assistant CD からコピーした PXE サーバー上の `initrd.img` の場所を、`siaurl=` は state ファイルの URL を、それぞれポイントする必要があります。

SIA CD に含まれている `/boot/isolinux/isolinux.cfg` ファイルの PXE サンプルターゲットから、PXE ブート引数セットの例を参考にすることができます。PXE ターゲットから `siaurl` 引数を削除することで、ネットワークからインストールをブートし、手動 (有人) インストールを実行できます。

## 3. OS の無人設定ファイルおよび PXE インストールイメージをセットアップします。

無人設定ファイルおよび PXE インストールイメージの作成については、次のドキュメントを参照してください。

- [11 ページの「Red Hat Enterprise Linux」](#)
- Red Hat kickstart ドキュメント

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/syadmin-guide/>

## 無人インストールの進捗状況の観察

無人インストールを観察し、無人インストールのセットアップ中に発生した問題をデバッグできます。インストールのデバッグに関する具体的な情報については、[66 ページの「無人インストールの問題のデバッグ」](#)を参照してください。

無人インストールの進捗状況は、次の 4 通りの方法で観察できます。

- [64 ページの「コンソールメッセージの表示」](#)
- [64 ページの「仮想コンソールまたは SSH 経由の接続」](#)
- [64 ページの「VNC 経由の接続」](#)
- [65 ページの「シリアルコンソールへの接続」](#)

---

**注** – 仮想コンソールまたは仮想ネットワークコンピューティング (VNC) 方法を使用する場合は、パスワードを設定する必要があります。「[Root および VNC アクセス用パスワードの設定](#)」を参照してください。

---

## Root および VNC アクセス用パスワードの設定

パスワードは、CD または PXE からブートする際に手動で、あるいは PXE ブートターゲット (/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default) で、ブート引数としてインストーラに提供されます。仮想コンソールまたは VNC を使用してインストールを観察するには、これらのパスワードを設定する必要があります。

---

**注** – CD からブートする際には、boot: プロンプトの表示に注意する必要があります。これは、5 秒間しか表示されません。boot プロンプトが表示されたときに、いずれかのキーを押すと、パスワード引数を入力することができます。

---

最大レベルのセキュリティには、CD boot: プロンプトで次の引数を使用します。使用できるパスワード引数には、次の 3 つがあります。

- **ptextpass=<パスワード>**  
この引数は、root パスワードおよび VNC パスワードの両方で使用するプレーンテキストパスワードを渡す方法を提供します。
- **rootpw=<DES 暗号化パスワード>**  
この引数は、プレーンテキストパスワードをネットワーク上で渡さずに、PXE ブート時の SSH リモートアクセスを有効にします。  
次の Perl スクリプトを使用して、<DES 暗号化パスワード> を作成します。  

```
# perl -e 'print crypt("<パスワード>","42") ."\n"'
```

文字列出力が、rootpw= 引数の後ろに入力するものです。

## ■ `vncauth=<16 進文字列>`

この引数は、VNC アクセス用のパスワードを有効にします。

リモート VNC 認証ファイルは、8 バイナリバイトです。vncpasswd でこの 8 バイトを作成し、ここに入力する 16 進文字列に変換します。

次のコマンドを使用して、`<16 進文字列>` を作成します。

```
# vncpasswd /tmp/vncauth
# od -t x1 /tmp/vncauth | awk '/0000000/ \
{print $2 $3 $4 $5 $6 $7 $8 $9}'
```

文字列出力が、vncauth= 引数の後ろに入力するものです。

## コンソールメッセージの表示

無人インストール中、システムコンソールにはスプラッシュ画面が表示されます。

コンソールメッセージが見えるように、Esc キーを使用してスプラッシュ画面を閉じます。

## 仮想コンソールまたは SSH 経由の接続

インストールインタフェースでは、Linux カーネルを実行し、仮想コンソールアクセスが提供されます。Ctrl-Alt-F2 キーを使用して、仮想コンソールにアクセスできます。また、Ctrl-Alt-F3 キーと Ctrl-Alt-F4 キーを使用して、他のコンソール画面を表示することもできます。仮想コンソールにログインするには、ブート引数として root パスワードを設定する必要があります。ログインすると、IP アドレスを見つけ、標準のログファイルを見ることができます。[63 ページの「Root および VNC アクセス用パスワードの設定」](#)を参照してください。

また、VNC アクセス用に提供されている IP アドレスに SSH 経由で接続することもできます。

## VNC 経由の接続

仮想ネットワークコンピューティング (VNC) は、無人インストールの実行時に自動的に有効にされます。ブート引数として `display=vnc` を追加することで、有人ネットワークインストールで VNC を有効にすることもできます。

VNC を経由して接続し、無人インストールを表示するには、次の手順に従います。

1. [63 ページの「Root および VNC アクセス用パスワードの設定」](#) に示すように、パスワードを設定します。

2. SIA スプラッシュ画面の表示後すぐに Esc キーを押します。

コンソールメッセージが表示されます。VNC サーバーが起動したあと、VNC を使用して接続する IP アドレスを示すメッセージが表示されます。

3. ステップ 3 で表示された IP アドレスで、VNC クライアントを使用してサーバーに接続します。次に例を示します。

```
# vncviewer <IP_アドレス>:1.0
```

4. プロンプトが表示され、ステップ 1 で設定したパスワードを入力すると、VNC が起動します。

手動インストールの実行時と同じインストーラインタフェースが表示されます。まったく同じ内容ではありませんが、ステップは同じものが表示されます。インストールの進行に従って、自動的に画面が先に進みます。VNC 画面は入力可能な状態になっているため、VNC ウィンドウで何らかの操作をすると、インストールが中断されます。

## シリアルコンソールへの接続

シリアルコンソールに接続し、無人インストールを表示するには、次の手順に従います。

1. ブート引数 `console=ttyS0,9600` を使用し、コンソール出力をシリアルコンソールにリダイレクトします。

これにより、デバッグ時にスクロールバックしてメッセージを表示できるようになります。実際のコンソールへの出力は無効になります。

2. シリアルポートからシリアルコンソールをセットアップします。

シリアルコンソール使用のすべての手順については、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』を参照してください。デフォルトのセットアップでは、シリアルポートからサービスプロセッサが使用できるようになります。

3. サービスプロセッサにログインします。

次のコマンドを入力して、コンソールを起動します。

```
# start /SP/console
```

4. システムをリブートします。

5. ネットワークブートオプションを選択します。

6. SIA ターゲットを選択し、ブートとインストールを確認します。

SIA のブート後、シリアルコンソールで黒の背景に黒のテキストが書き込まれる状態のままになることがあります。端末の `reset` コマンドを使用して、これをクリアし、テキストが表示されるようにします。

## 無人インストールの問題のデバッグ

無人インストールのセットアップ時によく起こる問題は、次のとおりです。

- 66 ページの「Sun Installation Assistant の PXE イメージがブートしない」
- 67 ページの「Sun Installation Assistant ブートが開始されたあとに停止する」
- 67 ページの「VNC パスワードが設定されない」

### Sun Installation Assistant の PXE イメージがブートしない

PXE イメージがブートしない場合は、次を実行してください。

1. DHCP および TFTP サーバーエリアと、`initrd.img` および `vmlinuz` ファイルの完全性を確認します。
2. カーネルブート引数が正しいことを確認します。SIA CD に入っている `boot/isolinux/isolinux.cfg` の PXE ターゲットの例を参考にしてください。
3. `state` ファイル、インストール場所、または `kickstart` ファイルの URL が正しいことを確認します。URL が正しいかどうかを判断するには、次の手順に従います。
  - a. コマンド `wget <URL>` で、URL をテストします。
  - b. DNS が正常に機能していることを確認するか、ホスト名の代わりに IP アドレスを使用します。
  - c. URL が正しくない場合に発生するエラーについて、次の表で確認します。

問題	現象
state ファイルの URL ( <code>siaurl</code> ) が間違っています	state ファイルの URL ( <code>siaurl</code> ) が間違っている場合、インストールがハングアップしたように見えます。コンソールで、VNC 情報の前に表示される次のエラーメッセージを確認します。 Unable to fetch unattended statefile: <URL> (無人 state ファイルを取得できません: <URL>)
state ファイルの URL ( <code>siaurl</code> ) の <code>InstallLoc</code> が間違っています	エラーメッセージを表示することなくシステムがリブートし、コンソールのリポート前に次のようなメッセージが表示されます。 Can't MD5 ... (MD5 を使用できません ...)
state ファイルの URL ( <code>siaurl</code> ) の <code>kickstart</code> エントリが間違っています	インストールがハングアップしたように見えます。コンソールに次のメッセージが表示されたあとに、アナコンダ固有のメッセージが続きます。 apit-magic: run: /installer/..." (apit-magic: 実行: /installer/...")
URL ファイルのパラメータが間違っています	VNC に接続すると、無人インストールが停止し、入力待ちになることがわかります。



## Sun Installation Assistant ブートが開始されたあとに停止する

Sun Installation Assistant が使用する `initrd.img` が 100M バイトを超えています。Solaris TFTP デーモンでは、このサイズのイメージを処理できません。

SIA がブートを開始したあとに、空白画面にタイムアウトエラーメッセージが表示されて停止した場合は、異なるオペレーティングシステムで TFTP サーバーに接続してください。

## VNC パスワードが設定されない

VNC パスワードが設定されない場合は、コンソールに次のメッセージが表示されます。

```
mv /dev/tty /dev/tty-node
ln -s /proc/self/fd/0 /dev/tty
echo <パスワード>
/usr/X11R6/bin/vncpasswd.real /installer/vncpasswd
echo <パスワード>
They don't match.Try again.
(一致していません。再度実行してください)
```

これは、タイミングの問題です。この問題を解決するには、システムをリブートしてインストールを再度実行してください。



# 索引

---

## C

CD-ROM からの VMware のインストール 33

## D

DHCP サーバー設定 21

## N

neopxe デーモン設定 23

NFS サービス設定 25

## P

portmap インストール 22

PXE 48

PXE インストール

OS のインストール 48 - 49

Red Hat Enterprise Linux

CD からのファイルのコピー 21

DHCP サーバーの設定 21

neopxe デーモンの設定 23

NFS サービスの設定 25

portmap のインストール 22

PXE インストールイメージの設定 27

PXE サーバーからのインストール 29

TFTP サービスの設定 22

ネットワークの事前設定 20

ファイアウォールの無効化 26

Red Hat Enterprise Linux 用の事前設定 20

PXE 設定

Sun Installation Assistant 59 - 60

## R

Red Hat Enterprise Linux

PXE インストール

CD からのファイルのコピー 21

DHCP サーバーの設定 21

neopxe デーモンの設定 23

NFS サービスの設定 25

portmap のインストール 22

PXE インストールの作成 27

PXE サーバーからのインストール 29

TFTP サービスの設定 22

ネットワークの事前設定 20

ファイアウォールの無効化 26

PXE インストールの概要 19

PXE インストールの作業マップ 19

インストールの概要 11

インストールの準備 13

オペレーティングシステムのアップデート 16

作業マップ 13

前提条件 14

ソフトウェアのアップデートまたはパッチ 13

ドキュメント 12

メディアからのインストール 14

メディアキットの入手 14

リモートコンソールを使用した  
インストール 17

## S

SLES → 「SUSE Linux Enterprise Server」を参照

Solaris 10 インストール 5

インストール方法 8

概要 5

最低要件 8

作業マップ 7

Sun Installation Assistant

PXE 設定 59 - 60

エラーメッセージ 52

概要 37, 51 - 53

使い方 53 - 58

無人インストール

VNCを使用した接続 64

仮想コンソールまたは SSH を使用した  
接続 64

観察 61

概要 60

コンソールメッセージの表示 64

シリアルコンソールへの接続 65

セットアップ 61

前提条件 61

デバッグ 66

パスワードの設定 63

ログファイル 53

SUSE Linux Enterprise Server のインストール

PXE インストール

OS のインストール 48 - 49

インストールイメージの作成 44 - 47

オペレーティングシステムのアップデート 40

概要 37 - 39

準備 39

メディアインストール 40 - 42

リモートコンソールアプリケーション 42 - 43

## T

TFTP サービス設定 22

## V

VMware

CDからのインストール 33

ネットワークインタフェースの有効化 33

VMware インストール 31

VMware のインストール

概要 31

作業マップ 32

VMware のネットワークインタフェース 33

## あ

アップデート、Red Hat Enterprise Linux オペレー  
ティングシステム 16

## い

イメージ 27

インストールの準備

SUSE Linux Enterprise Server 39

## え

エラーメッセージ

無人インストール 66

エラーメッセージ、Sun Installation Assistant 52

## お

オペレーティングシステムインストール

Red Hat Enterprise Linux 11

Solaris 10 5

概要 1

決定 2

前提条件 2

オペレーティングシステムのアップデート

SUSE Linux Enterprise Server 40

オペレーティングシステムのインストール

SUSE Linux Enterprise Server 37 - 43

## か

概要、オペレーティングシステムインストール 1

## さ

作業マップ

Red Hat Enterprise Linux PXE インストール 19

Red Hat Enterprise Linux インストール 13

Solaris 10 インストール 7

SUSE Linux Enterprise Server 44

VMware インストール 32

## せ

製品アップデート xi

### 前提条件

Red Hat Enterprise Linux メディアイン  
ストール 14

Solaris 10 インストール 8

Sun Installation Assistant 無人インストール 61

オペレーティングシステムインストール 2

## た

ダウンロード xi

## つ

ツールとドライバの CD 3

## と

### ドキュメント

Red Hat Enterprise Linux 12

Solaris 10 オペレーティングシステム 10

Sun Fire X4600 サーバー xii

フィードバック xiv

## ひ

表記上の規則 xiii

## ふ

ファイアウォールの無効化 26

## む

無人の Sun Installation Assistant インストール 60

## め

### メディアインストール

SUSE Linux Enterprise Server 40 - 42

## り

リソース CD 3

### リモートコンソール

Red Hat Enterprise Linux のインストール 17

### リモートコンソールインストール

SUSE Linux Enterprise Server 42 - 43

## ろ

ログファイル、Sun Installation Assistant 53

